

# トーマスと きんぎょ 金魚

トーマスは、おお大きな きんぎょ金魚なばちの なか中で スイスイと  
およ泳ぎまわ回る 3びきの きんぎょ金魚を ながめていました。  
きのう昨日、ペットショップで か買ってきたばかりの きんぎょ金魚が、  
およ泳ぎまわりながら、エサを た食べようとして くち口を  
パクパクさせる ようす様子を見るのは、とても楽しい  
ものでした。

「まいにち毎日 1回、わすれずに エサを あげるんだよ。」と、  
お父さんが い言いました。

「うん、わ分かった。」 トーマスは、しばらくの あいだ間は  
その やくそく約束を おぼえていました。きんぎょ金魚ばちは げんかんに  
お置いてあったので、トーマスは がっこう学校から かえ帰るたびに、  
ひと一つまみの エサを きんぎょ金魚ばちの なか中に お落としました。

トーマスは、きんぎょ金魚に エサを あげる ことは  
わすれませんでした。そうじは わすれがちでした。  
それで、お母さんも お父さんも、たびたび トーマスに、  
きんぎょ金魚ばちの みず水が にごって なか中も みどりいろ緑色になってきたから  
そうじが ひつよう必要だと い言わなければ なりませんでした。



ある日のことです。チュリが遊びにきました。  
「金魚がいるの？ 楽しそう！」思わず、チュリが  
声を上げました。

「うん。ぼくがエサをあげてるんだよ。」  
トーマスが得意気に言いました。

「金魚と遊ぼうよ。ぼく、きっとつかまえられるよ。」  
そう言うと、チュリはあみになりそうなものがないかと  
辺りを見回しました。

「それはどうかなあ・・・」 トーマスは心配になりました。

「手でもつかまえられるよ！」 そう言うと、  
チュリはすかさず手を水につこんで、金魚をつかまえようと  
追いかけ始めました。

金魚がチュリの手をかわしてあっちこちに  
すばやく泳ぎ回ったので、トーマスはさっきの  
心配などよそに、笑ってしまいました。

「庭で遊ぼう。」 チュリは金魚で遊ぶのが  
つまらなくなって言いました。

「うん。」 トーマスはそう言って、チュリと  
いっしょに庭に向かいました。



つぎ ひ あさ かな お  
次の日の朝、悲しいことが起こりました。  
きんぎょ きんぎょ いっ し すいめん う  
金魚ばちの金魚が1匹、死んで水面に浮かんで  
いるのです。トーマスはびっくりしました。

「お父さん！」 チュリは 声を 上げながら、  
お父さんに 死んでいる 金魚を 見せました。

「チュリだよ、チュリのせいだよ！ 手で 金魚を  
つかまえようと 追いかけて回したんだ。だから、  
いっ し  
1匹死んじゃったんだよ。」

お父さんは トーマスに うでを 回し、 背中を 軽く  
たたいて 言いました。「確かに、金魚が 1匹  
死んでしまったのは、悲しい ことだね。だけど、  
それが 全部、チュリのせいだとは 思わないな。」

「だけど、金魚ばちの 中に 手をつっこんだのは、  
チュリだよ。」と、トーマスは 言いほりました。

「手を入れないでって、言ったかい？」

「う、ううん……。それで 金魚が 死んじゃうなんて、  
し  
知らなかったもの！」



「だが、今は分かっただろう。それにな、トーマス。  
金魚が元気でいられる世話の仕方もあるぞ。」

「本当？」

「ああ。何のことも、分かるだろう。金魚には  
きれいな水が大切なんだ。」

「分かったよ、お父さん。これからは、金魚の  
世話を もっとちゃんとやるね。」 トーマスは  
まじめな顔で言いました。

その日からというもの、トーマスは金魚に  
エサをあげるのも、金魚ばちをきれいにするのも、  
毎日きちんとやるようになりました。チュリが  
遊びに来て、また金魚ばちに手を入れたがると、  
トーマスはそれを止めました。そして、前に起こった  
ことを話しました。チュリはあやまって、これからは  
気をつけるよと言いました。

---

**聖句：**何によらず手をつけたことは熱心に  
するがよい。新共同訳聖書、コヘレトの言葉 9:10

